

地方創生加速化交付金事業に係る効果検証(H28年度実施分)

No	① 事業の名称	② 事業内容	③ 交付金の種類	④ 実績額 (単位千円)	⑤ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑥ 取組の検証		⑦ 外部有識者からの評価		⑧ 実績値を踏まえた事業の今後について		
					指標		指標値	実績値	目標年月	事業効果	成果・課題	事業の評価	外部有識者からの意見等	今後の方針	今後の方針の理由
					指標①	指標②	指標③	指標④	指標⑤						
1	八女の森とまちによる循環型のまちづくり	森林資源(木材や林業従事者)と福島地区の遊休資源(空き家等や遊休公共施設等)を活用して、新たな産業の開発・育成を実現していくために、行政と市民・企業の間立ち、企業の新分野の事業化や人材・技術の育成を支援し、福岡都市圏をはじめとする都市部への販路拡大を担う中間支援組織(八女版地域商社)の設立を目指す。	加速化交付金	23,793	指標① 試作品・商品開発件数(件)	2	5	H29.3	地方創生に効果があった	地域商社の組織体制の形成には至らなかったため、製材業者・森林組合・町並み保存会・デザイナーによる「福岡の森八女の木実行委員会」を設立し、実行委員会形式で木質化オフィス家具の商品化を行った。また、新規林業経営体をつくりだすことができなかったため、商品開発、販路拡大を進めながら、加工・販売部門での林業経営体形成を目指したい。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・林業従事者が高齢化等で減ったことから、木は年々大きくなり機械化でも伐り出しが難しい。八女材の需要が増えても伐り出した木がなければ意味がないため、林業従事者の人材育成も必要である。 ・現在の木材の量、従事者のデータや事業効果をさらに正確に把握できないか。 ・将来的には学生の就業先としても興味深い。 ・市役所内のショールームは、場所がわかりにくく事務室と一体化しており一般向けではない。今後の展示は、喫茶スペースにするなどの雰囲気作りも重要ではないか。	事業の継続	目標値には達しなかったが、商品開発に一定の効果があった。今後は、八女福島地区の空家を活用し、林業6次産業化の拠点施設を整備し、商品開発等に取り組む。また、販売を担う八女版地域商社を設立し、一体的な効果を目指す。	
指標② 販路拡大企業累計数(社)	3	1	H29.3												
指標③ イベント実施による集客数(人)	500	100	H29.3												
指標④ 新規林業経営体の数(件)	2	0	H29.3												
指標⑤															
2	茶・連・時(ちやれんじ)～お茶を通じて未来に連なる種をまこう～	八女茶(特にGI認証の八女伝統本玉露)のブランディングのために、関係者(市、茶生産者、茶商、農協、福岡県等)で構成する協議会を発足し、販売の戦略づくり、新たな流通経路の開拓、人材育成等を行う。	加速化交付金	49,600	指標① 開発商品の取引業者数(社)	2	1	H29.3	地方創生に効果があった	国内外でのイベントにより、メディア露出が増加し八女茶の認知度が向上した。玉露と料理のペアリングイベントを実施した際、会場、スタッフ確保、インフルエンサーや飲食店シェフなどの参加者の選択に苦慮した。海外(ニューヨーク)でのイベントでは語学上の問題もあり、現地との調整にも配慮したい。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・玉露に特化せず八女茶全部を高めることができないか。 ・八女茶全体で事業を行うか、まず玉露を一点強化して牽引するのと、どちらが良いのか難しい。 ・高級路線は印象的でPR効果が高い。海外に向けてもさらに発信を重ね、八女茶全体を盛り上げてほしい。 ・茶の生産販売で毎年同じことを繰り返しても、売上は減る一方であり、有効なチャレンジだと思う。	事業の継続	本年度は、玉露を今までの茶葉流通だけでなく、新たに高級飲食店等でメニュー化できるか可能性を検証した。今後は採用店の拡大に取り組むとともに、八女茶全体でも飲食店での採用促進やネット販売体制構築に取り組む。	
指標② 市内へのバイヤー招聘人数(社)	5	5	H29.3												
指標③ 八女伝統本玉露の荒茶取引単価(円)	16,000	12,281	H29.3												
指標④ 八女茶の市場の取引実績額(百万円)	3,112	3,013	H29.3												
指標⑤															